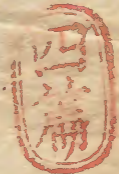


大石猪十郎久敬著述



改正補訂 地方凡例録

見山樓藏版



改正補訂地方凡例録卷之七八目錄

卷之七上

一 郷帳発之事

附地方三帳之事 取箇之事 納拂明細帳之事

勘定帳之事 御証文并起合印調印之事

郷帳并取箇帳可差出期月之事 諸帳面寸法之事

一 割付免状之事

附掛札之事

一 勤方帳紹りの事

附諸帳仕立方改正定書之事

勤方帳全事出入組入方之事

改正地方凡例録 卷之七上 目次

一村鹽夫概帳之事

一勘定所役筋掛り分けの事

一庄屋名主濫觴之事

附名主給米引高并供人足遣ひ方之事

組頭百姓代之事 村役人唱へ之事 大庄屋停止之事

卷之七下

一五人組濫觴之事 附五人組帳前書之事

一由緒百姓之事

附百姓席順之事 由緒多し百姓帯刀仕置之事

謂よりく百姓苗字停止之事 同上下着用停止之事

奇特者褒美被下苗字免除近例之事

一分附家祀百姓之事

一百姓新規商賣停止之事 附享保七寅年觸書之事

一欠落百姓跡抹之事

附欠落者出奔逐電訊之事 欠落者尋方之事

一奉公人欠落并取逃之事

一召仕の男女欠落之事

一再欠落之事

一欠落者と関ひ置たる者の事

一人と殺し立退るる者と訴へ出さる時之事

一欠落逃散旧離等之事

一勘當旧離帳外之事 附義絶之事

卷之八上

一 郷村受取渡し之事

附 郷村受取済たる上村方より取べき書物之事

代官所引渡しの際先支配より取べき書物之事

郷村受取の上村方へ申渡し之事

傳馬宿受取の上取計ひ方之事 郷村諸事吟味心得方之事

村々高札并浦々高札之事

郷村諸書物受取渡し済たる上心得べき品之事

一分郷之事

卷之八下

長吏彈左衛門由緒之事

一 非人車善七由緒之事

附 品川松右衛門由緒之事

一 古跡新地差別之事

附 寺社に於て殺生之事

一 寺院呼出之事

附 寺院出入差出方之事 寺院より料所百姓直呼出之事

自身葬之事 僧位僧官并穢多非人の称也廢止之事

一 官芝居并辻駕籠廢止之事

一 府縣支配所之事

改正補訂地方凡例錄卷之七八目錄

改正補訂地方凡例錄卷之七上

高野 大石久敬士慕 著述

一 郷帳癸之事

附地方三帳之事 取箇之事 納拂明細帳之事

勘定帳之事 御證文并起合印調印之事

郷帳并取箇帳可差出期月之事 諸帳面寸法之事

郷帳の濫觴を尋らふ古来と諸事大様入事と相祝の法細密あらざる其年

より代官取箇と極めく相納ゆるとたを領まうく多少の字鑿りあふ厚割

と云らるる濟々来りし処度安二五十年諸代官へ取箇并小物成高掛

り物等の納め等々帳面仕立勘定処へ差出を乞ふ旨命せし案文相

渡り之仕立の成箇郷帳と名付け此時より差出を以て成りたる元  
 其一村の土地より出る品類を記帳面より依て是郷帳より出相  
 移の元より納むべき品々之を減らし去るに至りて大切の帳面より  
 領主納処の根元たる方へ一郷帳は実違ひ書損き所を代官差和を  
 同定例あり郷帳を載るを納むべき品々の元より之を掛る口米永  
 或を出目米延米又と年々増減する諸運上を一臨時物等を載る土地  
 より發る品数計りと記するへ知行渡のした物成詰より高し結ぶを  
 郷帳組の品と計りあり郷帳組の品々を物成詰よりあるは郷帳の  
 米永より起る納め物其外臨時に差出た品々等一体の米金の納め廻り  
 と記ししるを納明細帳と云帳面より減草に蔵り金蔵へ納むべき  
 品数一事り減らすと一郷帳仕組方振合の難移を未記

但し郷帳は若違ひの事代官差和を同ふやうの大切なる帳面故決  
 して違ひあるものとし以前を勘定所より於て改るてありしは三十  
 年程前の此より勘定方の内郷帳掛り出来て當時を勘定処へ手代差  
 出相手として改るを以て成たり  
 一郷帳より五箇年重のより下りと記し五箇年平均米の重を以て年貢の  
 高下と知り知行渡の物成詰より郷帳五箇年の米を以て我をてあり  
 但し前篇の記を以て永方の米より直し惣取より加へ重を割るより永壹  
 貫文々米式石五斗替りて米を出し又五箇年平均の取米を記す  
 を壹石式斗五升替りて以て米を付け重を割るあり之を知行渡り等  
 用る實米を見る為あるは依て當時の相場より近きを用の之を實重と  
 を又五箇年平均の重を見らると其年の重より五を乗け其年より前四

箇年の種の上りたる分其内より引き下りたる分を加へて算り  
たる分を五つに割し割出したる種割是を五箇年平均の種あり  
一 地方三帳と云を左に記す  
一 成箇郷帳

是を前条に著すに通りたり

一年貢可納割付

是を年貢米金銀等物成高掛り口米金其外其年納むべき品と書き  
記し調印の上村方へ渡せり季々の末の条下に記す  
一年貢米金目録

是を年貢米金皆濟致したる上帳面と仕立代官調印致し殿中皆濟方  
へ差出を國郡譯定免検見譯事致さば一支配物総より高く記し本途

見取米永高掛り小物成口米永諸運上分一米金等米へ計り立む付其外  
諸拂物代金等々を納むべき品とて残らば一口限り元を記し石代の方  
之内譯致し代金を付て此拂と立て元拂勘定は合せたる帳面あり此帳

面と皆濟方へ差出し地方元拂の金蔵元拂より追々取置たるを置証文  
置証文と云を年々類或を其品に依りて永く元組む  
り辨立するの証文何ヶ年か用ゆるを置証文と云當証文と其年

限り元拂の証文より勘定と仕上げ証文より引と差出せむ証文合と  
合せ消めむ上げ証文より勘定と仕上げ証文より引と差出せむ証文合と

皆濟目録の條より突き合せりて調べ消たる上勘定奉行へ皆濟届  
書差出を届書振合左の如し  
但し粘入半  
切又誤む

私所代官所當分預り所武蔵上野下總國高六万六千五百廿石九升  
八合八勺四才及高武百三十九町貳反九畝廿七步新塩濱及高壹町六

反九畝拾歩去丑年御物成米五千貳百四拾六石壹斗壹升壹合四勺五

才米廿四石七斗六升六合六勺去々子年置米残米と小去丑年十二月廿九日より當寅二月晦日モソカをモソカ茂草内蔵へ上納仕金七百八十壹兩貳分永百八拾三文七分五厘去丑年六月廿六日より當寅五月廿六日迄江戸御金蔵へ上納仕小

一 小物成并コモノナリ口米代御蔵米入用等去丑年取立トリダテべき分米三石貳斗九升八合去丑十二月廿九日より當寅二月晦日モソカをモソカ茂草御蔵へ上納仕金千百廿八兩壹分永百三十九文四分九厘去丑六月廿九日より當寅五月廿六日モソカを江戸御金蔵へ上納皆消仕小又付内届申上小以上

寅七月

何之難

一代官役所より村方へ渡を皆消目録を村々年貢米金銀を役所へ納むると見一村限りは通帳を村方へ渡し置上納の度毎當番の手代請取の役

所元帳と通帳に記し金銀は添へ元締手代へ差出せど元締之を受取り押切印形致し通帳を村方へ渡し又村方へ手代を差出し取り立ると見手代姓名より受取書と之と之と小手形と唱へ米と茂草内蔵へ納め蔵奉行より納札相渡り納札と云を其日納めたる帳敷と小直幣の書官宛名員数又と内蔵方押切致し之を何の年貢米受取り段蔵奉行連印代金蔵へ納めたる金の納札も右同様金奉行連印りて渡り米金銀とも皆濟の上右通帳小手形等と役所へ差出せど皆濟目録より引替之を受取り証据とて村方へ渡し置く石の二帳とも仕立方の振合未と記せり右三品の書物と地方の三帳と唱へ高取米金銀小物成高掛り其外諸納物高内引とも三帳の員数少しり違ふを様相仕立郷帳皆消目録を由勘定所へ差出し割付并又村方皆消目録と代官調印の上村方へ渡し若し令事訴訟等ある時を証据とて大切の書物あり



一取箇帳之租税の元あり田方検見致し取箇と極め之と記以勿論定免村  
より取箇増減ありし之と載せ前年の取箇の増減と記し并前年よ  
り跡四箇年分取米永と差引増減と記を其前六箇年分下げ見よして  
記し都合拾箇年分の取箇の高下を見せ給あり尤一村限り熟りたる  
ゆへ一那限り免免破免檢見取と三口よかけ重を付て田畑本途見取  
し之と載せ外納物と載せ一支配限り熟等より勘見野へ差出を  
左せれ勘見野へ於て取箇方之と改め取箇の高下と論じ檢見取破  
免の令前年より減り多々れを相増を去き旨再應代官へ達し被ふれ  
ぞ引戻しして少く取箇を増て差出を然と共村方を取初代官の取極置  
たる取箇をむご多分の増を成准し仮令何程吟味強くも代官の目驗  
を以て極たる取箇をむご増べき所をふくれり少り増きむご勘定野

吟味の詮りなく取箇帳りの近し清かるゆへ是非なく少く増たり若  
し村方して増准むごむ扱なく代官より辨納を念てり右吟味清伺  
の通り取箇相極たる旨勘定組頭より口達りて請書と出さるる都  
て郷帳割付より此取箇と元より仕立其年の納野の元と成りゆへ至  
て大切の帳面より公儀并に諸侯其外諸旗本より家祿の元と成る地  
方第一の帳面より聊り疎うまをぐり於帳面の仕組方未と記せ  
但旗本を勿論諸侯方より此帳面あり其年の取箇割付と元より  
納り高何程と知る家より併し是を甚を宜しうばる仕方あり取  
箇帳と家祿の根元あり必ば有度と有り高増領ハ右に似寄たる取  
箇の元と記を帳面是と考へりて其年の取箇極りたる上年への厘付  
帳と添へ會野に於て年寄并に勝手方列席へ差出し一覽り取箇相

清む上と勝手方地方掛りの者へ料理と給する旧例あり外諸侯方より取商極を免振舞とく掛りの面へ料理の出る家も有る由也  
一納拂明細帳と云々右取商帳郷帳記載たる諸納物を勿論年々増減の諸運上分一或は山林枯竹普請古木古鉄物拂代又と欠所物過料金等凡て浅草中蔵に金蔵へ納むべき品と一事も浅草に様組入地方組の元は成り又村へ渡さへべき品も是亦残り才も拂立て諸拜借返納米金地方組する令と外書はメて勘定仕上の元拂は成帳面より中皆清方へ差出し証文合もり仕組方を示離形と出せ  
一勘定帳と年貢米金其外諸納拂等と一品も浅草に様右の納拂明細帳記載たる浅草中蔵に金蔵へ上納皆清并に諸渡し方へ清し上仕立の勘定所帳面方組頭へ出し掛り勘定方の改めと諸証文合せ札合せ札合せ

単に蔵に金蔵へ納りたる米金蔵奉行金奉行の受取書と納札と云其外勘定帳に記し所負数とりの納め札と突合せ札合せと云  
突合せ物残ら清し置証文并に納札と小直紙に字し帳は仕立差出し置証文を代官へ取置當証文納札と勘定所へ上りたり右証文合せ清と  
たも上記印方調方へ証文持参し突合せ起合印調印とら苗帳と消し其後勘定奉行より老中へ出席へ差出し席は於て勘定奉行吟味役組頭侍坐代官罷出代官外地方勘定帳計り勘定合と云云は是を帳面奥の惣寄と代官讀之上但し勘定帳の寄りては代官讀に違ひ計り難き付定処は於て下誓古り是勘定方算計致し元拂差引合せ勘定清め勘定奉行吟味役組頭連名とく代官宛名の奥書より尚其奥は老中方連名の奥印綴日印と勝手方老中調印とく代官へ渡るは金蔵勘定帳と云金蔵より請取たる金銀と元立て其拂の廢と記し是又証文合等何

改の府より上を勘定奉行より粗頭迄の奥印を渡す由金蔵勘  
定帳并に地方勘定帳に預り処の分を老中方奥印なし帳面仕立方の離  
形を未と委し

但し勘定仕上の儀年貢未進等有りて年送り成り三年中勘定仕  
上の分を其通り送り相済む若三年と裁皆済む勘定の仕  
上延引する時を乳明に成り代官校より障り事宜を寄てと家より障  
り送り

一御証文と云々納むべき米金又拂立べき品々の負数と記し代官より  
伺書差出し勘定処下知の趣裏書送り或る負数計り印形有りも有  
て裏書を口の処負数判と負数の処へ勘定奉行吟味役粗頭印形計り  
押て渡す又伺書差出せを其掛りの勘定役為と吟味と逐改め済む

上廻しと云々右三役へ残らぬ相廻し一覽し存寄ぶれど長印と吟味  
役の改印を押し夫より月番勘定奉行初判り段々調印し代官へ渡す  
之の証文と云々小地方の元組べき米金郷帳組の品を別郷帳と負数  
証文と云々及ぶ証文郷帳組入る年季諸運上臨時納物或は拂  
物代等都て証文とある年季物又を何ぞ子細ゆゆの事知の趣裏書  
に認め右三役の印形送り但し姓名を書き印形計りあり以前に附紙  
永に用ひ成証文又と年季内相用証文是を置証文と云ひ其年限り  
元拂立立証文と當証文と云是を裏書の下知あり負数の処へ右三役  
の印形を押し勘定仕上証文合の時置証文を小直紙帳に字し差出し  
証文を代官へ取置き年季明の節上げ証文に致を當証文を証文合せ消  
か直り上証文に致を金蔵の勘定に成る証文も同然あり金蔵元立金

銀渡すべき負教極りたる上代官入手形として金蔵より之を受取勘定  
元立拂の儀を都て証文を取り是を拂ふ夫食種貸其外諸拜借等の類  
の拂と置證文より其年渡し切の品を當證文より成るるなり  
一 起合印と云を地方元立べき米金を起印として勘定所起印方掛り勘定  
へ伺書の字帳は本紙を添て差出せむ苗帳は記し負教の首并見出し  
の上は起の字の小さく印形を押し之を起印と云起印を取たる伺書と  
其品の掛り組頭へ差出せむあり合印を凡て起印は証文伺書三役の  
印形揃ひたる上又起印方へ差出せむ起印苗帳の負教は讀み合せ丸  
合の字の小さく印形を起印の左に押し夫より右の証文と調方掛り勘  
定へ字消差出せむ調苗帳は負教と記し苗帳と証文は割判をなす是を  
調方と云調印と地方元拂金蔵とも都て取らあり地方元組の証文へ起

合印を取を起を登ると訓し其品の初て納所の元立成りへ起印を取て  
より依て金蔵元并地方金蔵とも拂の証文を起印なし併し夫食種貸  
其外諸拜借を拂あれども起合印を取る是を返納の上元立返るるへ成  
るべし

但し寛政二戌年八月相改り起印字を差出せむ及むる旨命せられ  
たり

取箇帳前々を十一月限りは差出せむ定法なまむも國外より檢見句選  
く十一月中旬まで掛るものりて十一月中は帳面仕立出来兼るも付享  
保年中より代官檢見消歸府後三十日限り遠國を陣屋へ歸り三十日限  
り差出せむき旨の定法は成る若し出来兼る子細なりて延引及ぶ時  
を取箇方へ日延と申立るとあり

文正七下九判帳  
卷二  
帳面中法

一 郷帳と関東遠國とも其年十二月限りは差出せ是又取箇帳簿方遅く其外諸証文等済む差支へりて郷帳仕立は差支ゆれど春は成て差出はるも有り尤も勘定処より催促ふれど代官より延引の訳を届る小及むは催促の延引の次第を申立る尤も三月限り差出せを催促す

一 諸帳面寸法之事

一 郷帳

縦一尺五寸五分 横七寸八分 綴目外八分 紙と中程村字綴 双紙綴

一 勘定帳

縦一尺四寸五分 横七寸六分 綴目外七分 袋綴 紙と厚程村

但し綴目より老中方調印する一付平字綴切付張より綴目高うぬ様をばし

一 勤帳

縦九寸五分 横六寸七分 綴目外七分 紙と大障子 小口張

一村暨天祭帳

寸法郷帳と同 紙と上西の内打紙字綴双紙綴

右の外勘定処へ出さ諸帳面寸法を定めふし取箇帳も紙と西の内袋張と極りられども寸法の極りもを

一 割付免状之事

附掛札之事

割付免状より百姓上納年貢の目録より上方と関東一とを名目違ふより関東一とを割付と云ひ駿河より上方筋中國西國方よりを免状と唱へ又國より下札と云処より何れも古来より其処の云習ハししを唱の違ふれも別の物より割付と云と田畑上中下の反別

取米永と割付て取立と云々有り又免状と云々古き詞りて是程年貢  
納むべし其余を百姓の取分は免し遣うと云て成べし前条より記し  
付の工を免と云と同儀有り上より下まで免と記したる書付と云意  
しく免状の唱ふるより下札と云を料所よりなく遠國の私領等  
て下札と云処の由あり其謂を解せば按ては料所の割付免  
状の様は高反別田畑の分ち等と巨細は記さば納むべき米金と記し  
免計りて付て村へ渡せ処り有りて是を下札の様ある端書のへ下札  
と唱ふる成べし又先輩小宮山氏の按は免状と同意より上より下  
より年貢の書付と云意ありと有り料所より割付免状未だ出来  
ざる以前より免状と云て検見済取前極まで先納むべき米永過計り  
端書は書付役所の押切りて渡し米捕へて一有るべき年貢より追は取

立て割付免状と追て出来次第春よりありて渡り関東より是を反割  
付と云ふは反免状と唱ふあり右の下札を即ち反免状同然あり遠國  
の私領のへ其年の納むべき米銀過さる知まると済む心得りて地頭  
村方より夫成は致し置て見たり右より記さば割付郷帳の後年他  
領他村田地米金等の儀は竹藪一公事出入等の起ると免と証据より成  
べき大切の品ありを反令私領遠國たりとも割付免状の此度巨細は書  
分け重役人調印りて渡し置たり右割付免状の認方及び振合を  
其國其支配の引付りて一定せりと云ふ其大縣を以て未だ出を  
但し割付免状ともは検見取ふれど年々より渡り免村を切替の初年  
渡すと免奥文言は高取米永増減ありたてを定免中を此割付と用  
ゆべき旨と書入て相渡し相違ふれど年々渡ると免破免の勿

論損地りるゝ起返りるゝ或も小物成諸運上等増減りてかゝり  
ても高取米永増減りる年を定免中より割付相渡凡て割付村  
方へ渡とど村中長百姓五人組判頭等と名主元へ呼出し割付と拜見  
致さる拜見証文とて割付為と拜見承知仕小然る上り割付通り期月  
まで吃度皆消可仕旨の証文と認め惣百姓連印の書付と名主元へ取  
置き代官役所より於てり字より付村役人どりの奥印と取置べき也  
一掛札と云々享保の初比より起り本百姓入作越石等に至る近年の取  
箇と散く知て免割は虚妄ありしめんが為二年貢高厘附取と委細  
の書かて其村の高札場々又と名主庄屋の門或は戸口の上ある諸人  
見安き処へ板より書し掛置之と掛札と云此掛札の下書は役所より仕立  
村へ渡と是を年貢納方等より付村役人共々毒邪の筋ありと為あり

一勤方帳格目之事

附諸帳仕立方改正書之事

勤方帳公事出入組入方之事

勤方帳と云々其年の高取米永と記し定免檢見と分け前年の増減と付  
け拂と立米金納方其外諸運上小物成等の負數返納物新田畑開墾荒田  
畑民家損失は普請入用米金天食種貸公事出入等代官処預り処りて取  
計ひたる儀と相認め毎年勘定処へ差出し老中方へ上る右帳面古米と  
あるとありしは享保年中代官吉田又左衛門自分代官処勤向の儀と書  
上たる処尤あるてり付以米石の趣諸代官より書上るに首命せられ其  
後と右の帳面差出とてり成たり是を御前帳の紙と大障子よりてす  
法種り一字充離し續け字界字等より採手跡り吟味して認む尤も勤方

西... 勘定... 帳... 申渡

帳と差出を前より勘方明細帳と云巨細の帳面と勘定処へ差出し掛り勘  
定帳の改と受其後勘方帳と差出を冊数と上納壹冊老中方控壹冊勘定  
処控と都合三冊勘定所和と差出を讀合せ等も代官自身と再三讀合  
せ尚又掛り勘定讀合せて清撰したる上勘定廻頭讀合せりて悉く六  
の敷帳面より紙敷を少ふれども代官方より入用手間等多分掛る  
あつ右の外は八箇条とて堅帛返物相添差出し大造ある書物あり其帳  
合を未だ離形と出せ

但し勘方帳の認方以前と至て巨細とて六の敷有し処寛政二戊午同  
の上勘定処より仕組方格別省畧よりあつて紫紙渡り當時と手安く成  
たり其外村壁大堅帳掛帳諸証文等も代官方入用嵩と手間掛り故  
省怨を以て悉く省畧の書付相渡り其文左に記す

申渡

年と被差出小柳代官所預所勘方帳の儀以来別紙報告の通致省畧  
取調可被差出小尤も紫帛帳面可相渡り右の段越中守殿へ伺の上申  
渡す

一 諸國村鑿帳の儀是迄より并は勘定処控帳面より式通元年と被差出  
外処以来上りの分壹通被差出勘定所控の分を差出と及むる場所  
督最寄督或は新田高入等其外入狂ひ等も無之れを前年被差出帳  
面人数増減の処計掛紙致し相直し置小様可致す  
一元組証文の分を是迄起印掛りへ差出改印取り儀は付其節の証文字  
相添被差出外処以来を字差出と及むる尤証文の趣起印掛り当帳  
出役手代直は書載の上起印請取小様可致す

文正... 勘定...



一高國郡譯帳の儀何方諸入用方掛りへ是迄被差出外右帳面以来諸  
 入用方へ年々定式に差出不及若し相札儀有之れ其節に掛り  
 よう可申違ひ間其段可被相心得小  
 一郷帳の儀是迄の振合りてを紙嵩り余計に相成掛りては帳面嵩り  
 以て取扱不宜小間細字に認め小様去々年中相違外其後差出  
 小郷帳以前の通紙嵩り認め被差出外有之小間此度別紙伊奈石  
 近將監郷帳の振合相渡小間右の通り間違無之様以来認め被差出外  
 様可被相心得小  
 右の通り各役所向御用多相聞其上筆墨紙等も多分相掛り小趣及付勤  
 方帳省畧の儀此度相聞ひ其外省畧致し取扱等も不拘儀評議の上  
 右の通相極申渡小間可得其意小

成八月

右々寛政二戌年八月勘定所中の間、及び在府代官并留守居元締手  
 代と呼出し前書の通り命せられ請書に差出したる由あり  
 一高國郡譯帳と云々代官所預所郡限り高寄何國何郡何村と西の内  
 堅紙に認め毎年正月十一日後取箇方同方諸入用方三掛りへ差出し場  
 所替置替等られ其節早速認め替て差出外尤り諸入用方へも以来  
 差出外及む由仰渡され取箇方同方計りへ差出外とて成る取  
 箇方の帳面と村名と書き并し小直紙四半帳壹冊外は手代姓名帳と云  
 物と添て出を銘々扶持切米高姓名と西の内帳は小直紙より短冊張札  
 二認め壹冊小直紙四半帳壹冊高國郡譯帳と一同に差出置き手代花入  
 帳同相消入替り増減の節と短冊紙に書て張替るにあり右小直紙四

文正七  
 卷一  
 附録

改正地丈内使金

半限の方と奉行方の控とある由なり

一 勤方帳は組入る公事出入と何との出入と組入ると云定めらふれ共  
答の所置附きる分を勿論此の度此の類軽き各の附る出入と組  
入る及心手續過料所辨位より組入るべき由其筋へ関合せたる  
処挨拶のしかり

但一 訴訟方料所支配違の出入等双方申合せく差出せし分と先役の  
代官より勤方帳に組入て差出せを次第の方と組入る及心づる  
由なり

一村鑿大集帳之事

一村鑿帳と云ふ享保年中より始まり上西の内打紙より一箇箇村壹枚の  
書き表紙に附け及紙綴り寸法前より極り認方と村高田畑及別石蔵

と記し檢地時代姓名と肩書より用水引方水早損の有無等物成諸運  
上の有無家数人数牛馬数農業の外男女の稼官林百姓林林場漁獵場  
音請所自音請の有無米の津出し場江戸練中々の海陸里数村方山里并  
は豊窮の譯中を逸く一書に認り此帳面より村方の様子大畧相合  
るは付村鑿大集帳と唱へ上納壹冊勘定所控壹冊是又御前帳の中勤方  
帳同様大切仕立掛り勘定杖と手代讀合せたり認方未に出せ

但寛政二戌年以来上納壹冊は成勘定所控と年々差出せ及心づる  
数増減の処も前年の帳に掛綴り直し置へき旨は極り

一 勘定所役筋掛り分けの事

一 殿中勘定所 中の間 組頭式人  
是を勘定奉行支配の面々隠居家督養子婚姻其外諸類諸届切米役料手

文正二

西地神... 珠山... 珠山...

形関外通手形宗門人別改村... 鉄炮証文出火其外支配所... 進等の類都て中の間の掛りあり尤も勘定方々夫々掛り分りる也

一 勝手方 組頭式入

是々年貢米金銀取立上納一式納御明細帳皆消目録并一屆書等と取計  
しあり此掛り勘定役と管濟方と云城内諸役屋敷并一寺社音請其外都  
て府内音請用水方と付たる儀一式此掛りと音請方と云此外は入用筋  
は拘りたるも何程も何りて夫々掛り分けりる也

一 下勘定所 組頭四人内 式人同方 式人帳面方

内掛り譯

一 伺方

是々勝手向在方とも定式臨時に入用筋一式郷帳并一諸式郷帳組除伺

等物成高掛り伺代官場外替取寄諸引渡物伺郷村引渡請取届書新田  
十分一渡伺破船具其外流寄たる品取上届取計伺船人拜借伺類燒取具  
代拜借金銀銅鉄鉛硫黄明礬炭薪山等の齊同夫食糧賃年延伺六尺給米  
石代伺又所取上田畑欠所物等佛伺高掛り物免除伺立野萱草等佛伺在  
方此役人抱入暇伺同扶持方手形代官并一手代在方入用伺都て入用  
拘りたる儀一式掛りたる

一 伺方之内 證文調方

是々諸證文残らば証印消たる迄調印附紙物と字添へ調印と取り代官  
所預所引渡し継続伺代官并一手代在出定式所用の外入用と差出を分  
出立歸着届書出し押切と取りの掛り

一 伺方之内 運上方

珠山... 珠山...

是之諸連上取立向并ノ免除同等都て運上分一具加米金ノ唱る類一式掛アキ

一同方之内 林方

是之林帳林改風折根返り雪折虫付立枯等ノ類拂伺其外代出し拂取木  
同林木并買上木江戸諫大坂廻り等ノ成たる節川支へ海上浦觸等ノ類  
運上木林奉行添状伺都て林ノ付たる儀一式此掛りあり

一同方之内 鷹方

是之鷹野一式鷹匠同ノ同心鳥見鐵炮方大方野扶持渡伺野廻り甜特水  
夫扶持伺鷹御用野廻り添状同等都て鷹ノ付たる儀一式掛りあり

一諸入用方

是之口米金銀勘定廻同諸彦方預り所口米永請取伺代官諸入用形等

の掛アキ

一郷帳改方

是之以前とありし処近年掛勘定使出来郷帳と差出したる上代官手  
代罷出前年突合を増減改めたることあり

一帳面調方

是之郷帳其外諸帳面と取調べ諸彦方諸旗本の領地知行國記ノ限調べ  
隱居家督養子増廻死去忌服等取調べ代官場外督家寄督國郡記帳と分  
限ノ拘りたる儀一式取調べ依て分限掛りとも大調べとも唱るあり  
當用と凡諸帳面諸書物を残らば取調を預り俗名よと及古調べ  
とも古國使方へり出張りたることあり

一國役掛

改正九ノ月付金

是を川々普請朝鮮人來朝其外より國役割り成る金銀割方納方取調べ  
上納届諸度方諸旗本寺社國役金代官へ納むるより請取書差出し  
押切と取る是を帳面調方の出張より其年は臨と掛りの勘定後の中よ  
り出勤するてり

一帳面方

是を勝手諸向勘定と仕上げ代官所預り所地方金蔵勘定帳と差出し勘  
定帳と仕上げ其外諸帳面の掛りあり

一帳面方の内 勤方帳掛り

是を勤方明細帳の改り勤方帳八箇条の改り讀合せ等の掛りあり

一同断 村鑑帳掛り

是を村鑑大帳の調へ讀合せ等の掛りあり

一起印方

是を地方勘定役元組証文より起印と取り証印消したる上起印のりる今  
へと合印と取る以前を殿中勝手方の内より掛り取り起印と取る処  
三十四年前より下勘定所へ引け帳面方役所より起印掛りたるてり

一筆墨紙方

是を國運上紙等の納め拂ひ其外勘定所向へ筆墨紙と渡す掛り也

一鍵番

是を勘定役の内より兩人充早朝出勤し下勘定所口の錠と明け其日の  
勤の勘定方姓名印形と取り下勘定所火の番を勤め昼過て翌日の鍵番  
へ錠鍵と渡りて退出せ翌日の鍵番と總仕廻り勘定所中の火の元と改  
め錠と卸りて退出せ尤も是を總勘定役より更番より之と勤むるあり

改定九ノ月付金

改正地帳  
卷之七

取箇方 組頭三人 内掛り取

一差出方

是を取箇帳に差出し取箇筋一式定免同夫食種貸同田畑損毛注進等其外取箇に付たる儀一式の掛りより勘定所第一の役所あり外は普請復抱入暇同代官手代抱入暇同等の掛りあり

一廻米方

是を國々石代相場書同諸石代同三分一直段同物成米買納添状同太細餅米叔三割増同置米同同残石代同廻米船出帆着船蔵納り届五里外駄賃海川運賃同城内米難破船吟味一件正四七十一月米麦錢相場書の外廻米に屬たる諸同諸届等一式の掛りあり

一普請方

是を村々用水川除道橋用叔米蔵其外内入用普請一件右に付たる古木古錢物に拂同普請木に遣ひたる林木蔵木同凡て在中普請に拘りたる事一式の掛りあり

一新田方

是を新田畑開発并見取場高入同検地同石蔵同検地帳新田石代同新田出作百姓引越女通り手形の願等凡て新田地方に屬たる類一式掛也

一知行割掛

是を諸侯方國替領地村替諸旗本知行渡新知加増代官場外替家寄村割私領渡し私領上知高帳私領渡障りの有無書付等凡て領地知行に拘りたる儀一式の掛りあり

一道中方

但掛り組頭取箇方一人  
中の間一人

改正地帳  
卷之七

録

功山地方所供金

是と五海道前より并道中奉行支配の宿場諸願諸届宿助成金拜借割賦同類焼困窮拜借傳馬宿入用米石代同損毛五分以上は付免除同道中筋道橋音請一件廻り道附以同宿出火注進書其外往還筋喪事等凡て道中筋に付たる儀一式の掛りあり

一 林奉行詰所

是と前々林奉行と定勤ありて林手代許り勘定所中の間の方詰所有て一兩人充相詰減木等と口林帳に書入其外取調たる処近來を別詰所出来し奉行も出勤するて成たり尤も林方と別段あり

一 漆油方役所

是と下勘定所の内は役所はとも勘定方掛りてとふ漆油奉行出席し油方手代相詰諸番所其外油渡しの切手と差出し漆遣方は又切手

と出た代官方てと掛り合あれた役所あり

一 普請役三役所

是と勘定所詰四川用水方在方と二役所あり普請役も三種あり分り夫々元々兩人充りて勘定所詰と普請計りてをあく地方のてり間も掛り重勘定所詰で勤むる古米とあれた処寛保の比吟味役堀口荒四郎新田掛りの節新田手代抱入て成り上下勤りて勘定所は相詰め其後新田掛り相止ざるゆへ新田手代と直り普請役もあし勘定所詰の普請役と最たり四川用水方江戸川荒川小貝川絹川此四川は附たる村方用水も四川普請役引受て掛り場詰り陳屋等たり四川方普請役の定掛り場多り前より四川奉行とて右川の用水掛りの奉行ありて其節も普請役務勤めあし四川奉行相止み関東代官方掛りて四

改定此方所供金

川方兼帯と成り普請役の代官手代の下席に附き関東代官の支配と受  
たる外之勤之所詰普請役の上下勤め同候より上下務と分り格式に  
差小様より成難く四川普請役の上下免除勤之奉行支配と成る尤も  
四川用水を今以て関東代官年番にて勤む普請役目論見たる四川定式  
普請帳の年番代官奥印より出金子手形等も代官より差出て受取り相  
渡は在方役所より以前を甲府其外在方より地役人の様成普請役より  
代官支配務勤めたる外甲府詰普請役の江戸在方役所詰より成り四川同  
様上下勤め勤之奉行支配に成る濃州笠松の地役人堤方と去て今も  
代官支配手代の下席に附き木曾川其外川除用水普請に掛る具等も以  
前の在方普請役の類あり右三役所より右三役所方違ひたるも當時より四川用水  
定掛りの外関東遠國川除用水或は新田見分其外公用向在出とも三役

所普請役打込より相勤め四川筋へも勤之所詰在方役所より出  
役し國々在方普請等も勤之所詰四川方より罷り出勤方打込に成  
るむ人数の三役所より分り元々も夫よりなりて三役所より取箇方組  
頭の支配あり

村差出明細帳之事

是れ其村の田畑高及別上中下を分け石盛を記し山林林場川々川の名  
川幅船渡歩行渉の款古城跡古跡用水川除道橋垣樋溜池堰筋の普請  
所自普請所の箇所敷家敷人数牛馬の員数寺社修験諸職人の有無用水  
掛りの款水旱損の有無堂宮叢祠等の員数朱印地除地の有無農業の外  
男女の稼漢獵場の有無廻米津出しの河岸場里敷四水二草の有無  
其村よりなる儀々一事も洩ふる様記し村役人連印より郷村に



請取たるを右帳面は村繪圖三千箇年割付字相添へ役所へ差出さるる定例あり尤も年々出まはるは扱又代官場所替寂寄替る節を元支配より當支配へ引きたし成る帳面より村方より出したる帳面ありとワへども村差出しを公事出入のより取り用さるる此振合認方等ハホは詳あり

但し出入等ありて双方の内右の帳面を証拠として申し争ふれば相當の儀を取用ひて証拠と成若不相當の儀は何十年以前より認め出せしより一体村方勝手は差出を帳面は付察當申取取潰しても苦しういふ由あり然も吟味の次第は依るべし

一 庄屋名主濫觴之事

附名主給米引高并は供入且遣ひ方之事

組頭百姓代之事 村役人唱之事 大庄屋停止之事

村里の長と庄屋名主と唱ふる濫觴を鎌倉將軍家の時代より始り貞永の式目より名主職となり又庄屋と云ふ式目より庄屋と云者なり何れも一郷に奉行する職分あり今の名主庄屋とハ異り士列の職掌たり今以て其引付より一邑の長たる者と庄屋名主と云ふるべし上世

聖武天皇の御宇吉備僧行基奉養の三人 勅を奉りて郡縣里を撰定し田園を点検せしめ士民五十戸を一里とし里毎に長一人を撰置き戸口を檢校せしめらるる其時代を農と共と云ふは武士を土着のては色を此長と今の名主庄屋とを異より一邑五十戸の軍役を勤る將たり貞永の頃迄も其農分らるれを式目より庄官名主職も百姓なるは武官あり其後時代押移り士農分るる村里を農家のと成行たるゆへ

改正地丈下後録

一村の内家柄正一由畑等多く所持したる百姓と一村の長とし庄官  
名主と定め村中を支配するに成たり  
上方筋遠國の庄屋を家極り数代連綿し若し庄屋役と勤むべき者幼若  
あれど粗頭の内より又も親族の内より後見と立庄屋の名目と其家の主  
幼年たりとも継ぐ一村を治め仮令大高持豊饒ある百姓たりとも其家  
柄より承れど名主役と勤むるに成らざるは之は因て庄屋の威厳重く村  
中融く治り庄屋の下知と替くべし尤も数代連綿し威勢有る任せ我  
儘あるとも多く百姓の為にあはざる儀もなり関東も昔も名主の家定  
まりたりし由あれども前書の趣よく百姓の為は且しこの儀も多き  
に依て享保の頃より一代勤め又も年番名主とて一村の内名主役と勤  
むべき家柄と撰む百姓の内より一年死順番は名主役と持つたり此の

如く百姓仲間由へ役威も曾てなく下の示し不行届く村中不取締の  
儀も多く両端の内何れも是あらんから難し関東名主病死り又も退役  
しく跡役と極ることを前々其村々の郷例は任せ総百姓入札とて高札の  
者より申付るより或も総百姓連印を以て願出るより勿論年番持の  
名主を願入札等より及むべ順番の者之を勤む年番とてあく一代限の  
名主退役の時其子役儀と勤むべき年番人品より村中存付り宜しけれ  
ば総百姓相談の上直は先名主の伴と願ふもなり又入札願出たる者よ  
てし其者の持高平日の行状美筆等の儀と役所は於て為と安んじ持  
勤むるべき者も申付候令高札ありとも勤む回数者も申入札の  
者どもへ理解と申吟し二番札は申付るより又も入札を仕直はとも致  
さべし凡て名主を百姓の心終り立置たる様は心得違ひたる百姓も有

ゆへに役威の薄く名主の申付より用ひて一村沼り兼て多うねる上の  
役人巨細の礼明し其任の叶える者と申付をし一村の長たるを随念  
と入とて礼を乞ふべきあり

但し近來村々より名主百姓出入多く一村不法ある者名主の勤  
め方不正ゆへの儀ゆり又畢竟百姓より立置名主ゆへに役威薄く百  
姓とも非礼不敬の儀多く我俵より起るてゆり名主を百姓役ある  
らば政事は拘り上の役人の口直似ても致す者あれ一村の内其  
人品と見立家筋等とも礼し尚又村中の帰服の有無と察し料所を代  
官私領を領主地頭役人より申付相應の死行ひとも取らせ置度と也  
然れども百姓とも我俵もふきば村方の締りも宜しく年貢取立等の  
不持り有間敷是古代の名主職庄官の勤務とも叶ふべからば若し又庄

屋名主心得違ゆゆりて上より命せらるる役人とも役威の寡く我  
俵等ゆへに強相向へど其時と嚴重の制し名主庄屋も不法等の曾てふ  
き林家密に裁断致し名主の私々上の役人之を礼し百姓の我俵を名  
主之と押えり普通一教諭せむ村方平安は治る年貢未進公事出入等  
の煩ひゆり少ありあべき如何程後方の奉行代官よりとも大勢の百姓  
を逸し教導の行届さるるてあり名主もゆりてを村中沼らるべき  
謂ふよし然らば依て名主庄屋も大切の役目あり併し料所私領とも  
名主給米と百姓より出し入札等と以て百姓の勝手のを名主も極  
るて近例たると當時の仕方政務の便り宜しきや先吏の定法を  
が今更改むべきよとあり

存寄にて以て入るべき通法を相談札を制禁あり又無印の入札を  
 勿れ又りてん定例あり就中名主の入札を政務に掛り百姓銘々の世  
 話へり拘りたる役人あるが家易ありけりよ村員偏頗の沙汰あり  
 為実正路にて用なる立寄人品を撰て勿論持高身代も相應よしと  
 笑筆も相成るものを入るべき依り依て入札以前村方へ申渡さるべき  
 と私の懸意と以て名主役と勤め兼る者等と根より入札致す間敷勿  
 論入札を一人別銘く又相認め印形封印して差出さるべし且高札の者  
 へ申付るは於ては少札の者より申付るは勿論高一高札の者札し  
 の上入品等宜しうけりけり或は持高少く名主役申付難き節を二番  
 三番札の内々札明し申付たり村中一勢少り申付あるは吉都て幾百  
 姓連印の書付を差出させ若又誰名主に成りても存寄の事あり付入

札を致す間敷と思ふ者も其趣の書付を差出さるべき様組頭百姓代へ  
 申渡し入札以前は村中誰も取締り上入札取集め組頭百姓代長百姓  
 とも立合ひて札を聞き一統評議の上名主を取極り願出べし勿論年  
 々差出を宗門帳五人組帳印形は入札の封印引合せ若し印形相違ひ  
 ありて如何様の記しを相違したる段是又組頭とも相話し其訳の書  
 付を取るべし左不々れど開札の上彼是出入等起るを問ひたるの也  
 私領りては陳屋役所等へ入札を差出させ開札致まを問ひ是とては  
 取締方と右同様たるべし

- 一名主給米先年の定め左の如し
- |         |      |         |      |
|---------|------|---------|------|
| 一村高百石より | 給米貳俵 | 一全貳百石より | 給米四俵 |
| 一百五十石より | 給米貳俵 | 三百石より   | 給米四俵 |
| 一全四百石より | 給米五俵 | 一全七百石より | 給米八俵 |
| 六百石より   | 給米五俵 | 一千石以上   | 給米八俵 |

五十五  
正  
五十五  
正

一 今十式百石より給米十俵  
千五百石

右より大高の村を是に准じ相増まべき昔先年命せられたるむり年貢  
の差引もとあきべ小前より別段に取立に相渡ま名主役の引高を廿石  
に限り其余の外百姓立は高役と勤め持高廿石以下の名主を高の有合  
たるべき昔是を命せられたる然るむり村々を色々の引付仕来りたり  
て一様なるに駄米計りて勤る村りたり又役引高計りて勤るむり  
り或は持高廿石に満ざる名主を賣高とを総村高の内廿石を引高よりて  
高代致し村方より取り自分持高を高役と勤る村りたり給米廿石の定  
法より多少のりり先を郷例引付の仕来りて用ゆるるり併し定めを  
前書の通りは付万一給米引高等の儀は付出入をどり節を定法を用  
ひて取計らへし

一 名主組頭江戸練表其外へ罷出るとは百姓と供は連村方より五里七里  
の処輕虎と出させ送り迎ひてさぐる類もなり多分の書物持来るとは  
年貢金銀も持来り節道中手當も召連るも格別謂とあく人馬と差出  
させ供は連るるも曾て成らば若し供と連るるも叶ふるるも其を自分  
家来りと召連るるもなり方一石付の儀は付名主百姓出入等なりて先役  
仕来りの音申立るとりへども曾て取上回数とたり

一 組頭と云る元来五人組の頭か致し今も百姓の内筆筆致し人品宜く  
高も相應り持ち用立つる死者と村の大小に依りて五人三人充入札り又  
も総百姓相談等も極め置名主の下役よりて領主地頭の用向并に村  
用とも勤む又病氣も或は何ぞ子細なりて退役致さば是れ又外の者と  
見立て勤めさるる組頭を給米多分村方多し引高を十石又五石八石

改正  
五十五  
正

位<sup>カライ</sup>のまじり組頭引高の儀<sup>ギ</sup>を定例<sup>テイレイ</sup>なし又上方遠國<sup>エモク</sup>等の年寄長百姓<sup>トヨヨリ</sup>も組頭<sup>クミガシ</sup>同然<sup>ドウゼン</sup>あり尤も組頭<sup>クミガシ</sup>役<sup>ヤク</sup>を願<sup>ネガ</sup>ひ出る<sup>イダ</sup>る<sup>ナ</sup>又むぐとつへども村方<sup>ムラカタ</sup>にて取締<sup>トシジ</sup>役所<sup>ヤクショ</sup>へを届<sup>トケ</sup>ておひてなり

一 百姓代<sup>ヘイヤクダイ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ名主組頭<sup>ナメヌクミガシ</sup>の外<sup>ソノ</sup>其村<sup>ソノムラ</sup>にて大高持<sup>オホタカモチ</sup>の百姓<sup>ヘイヤク</sup>壹人<sup>ヒト</sup>と極置<sup>キマゼ</sup>き尤も村<sup>ムラ</sup>より武人<sup>ブジン</sup>三人<sup>サンニン</sup>あり是<sup>コレ</sup>を名主組頭<sup>ナメヌクミガシ</sup>へ百姓<sup>ヘイヤク</sup>より目附<sup>メツケ</sup>あり村<sup>ムラ</sup>入用<sup>イリヨウ</sup>其外<sup>ソノトモ</sup>諸割賦物<sup>シヨバツモノ</sup>等の節<sup>ノビ</sup>を立合<sup>タテアヒ</sup>大高<sup>オホタカ</sup>と持<sup>モチ</sup>たる百姓<sup>ヘイヤク</sup>承知<sup>セウチ</sup>の上<sup>ウヘ</sup>より小高<sup>コタカ</sup>の者<sup>モノ</sup>申分<sup>マウブン</sup>あり為<sup>タメ</sup>あり百姓代<sup>ヘイヤクダイ</sup>と高持<sup>タカモチ</sup>の役<sup>ヤク</sup>より勤<sup>イダ</sup>る<sup>ナ</sup>人<sup>ヒト</sup>給米<sup>キタメ</sup>引高<sup>ヒキタカ</sup>等<sup>ナド</sup>なく右<sup>ミダリ</sup>の極<sup>キマ</sup>あれども村<sup>ムラ</sup>に依<sup>ヨ</sup>てと組頭<sup>クミガシ</sup>同様<sup>ドウヤウ</sup>高<sup>タカ</sup>の多少<sup>オホコト</sup>より強<sup>シイ</sup>て拘<sup>カウ</sup>る<sup>ナ</sup>は其<sup>ソノ</sup>壹人<sup>ヒト</sup>と撰<sup>ヒラ</sup>り總<sup>ソウ</sup>百姓<sup>ヘイヤク</sup>より撰<sup>ヒラ</sup>る<sup>ナ</sup>て百姓代<sup>ヘイヤクダイ</sup>に致<sup>イ</sup>せむはなれども長<sup>ナガ</sup>を當<sup>アタ</sup>らる<sup>ナ</sup>てとふり此<sup>コノ</sup>名主組頭<sup>ナメヌクミガシ</sup>百姓代<sup>ヘイヤクダイ</sup>と村方<sup>ムラカタ</sup>三役<sup>サンヤク</sup>と云<sup>イ</sup>ふ

一 村役人<sup>ムラヤクシ</sup>の唱<sup>ナゲ</sup>と閑東<sup>クワントウ</sup>よりと名主組頭<sup>ナメヌクミガシ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ五人<sup>ゴニン</sup>組<sup>グミ</sup>の筆頭<sup>ヒツダウ</sup>と判頭<sup>ハンダウ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ

上方遠國<sup>エモク</sup>と庄屋年寄<sup>シヤウヤトヨヨリ</sup>と唱<sup>ナゲ</sup>へ所<sup>トコロ</sup>に依<sup>ヨ</sup>てと庄屋<sup>シヤウヤ</sup>壹人<sup>ヒト</sup>年寄<sup>トヨヨリ</sup>壹人<sup>ヒト</sup>なりて組頭<sup>クミガシ</sup>も其外<sup>ソノトモ</sup>より三四人<sup>サンジウジン</sup>あり処<sup>トコロ</sup>より又庄屋<sup>シヤウヤ</sup>長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>と云<sup>イ</sup>ふ処<sup>トコロ</sup>より甲州<sup>コウシュウ</sup>などとも名主長百姓<sup>ナメヌナガヘイヤク</sup>と云<sup>イ</sup>ふ西國<sup>セイクニ</sup>船<sup>フネ</sup>よりと庄屋<sup>シヤウヤ</sup>或<sup>ナラバ</sup>と別當<sup>ベツトウ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ所<sup>トコロ</sup>より尤も在方<sup>ゾウカタ</sup>よりと少<sup>オホ</sup>ふし在中<sup>ナカニ</sup>より町場<sup>マチバ</sup>よりと別當<sup>ベツトウ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ所<sup>トコロ</sup>より元來<sup>ゲンライ</sup>長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>と云<sup>イ</sup>ふ上方遠國<sup>エモク</sup>とも一村<sup>イツムラ</sup>の内高持<sup>ウチタカモチ</sup>又<sup>マタ</sup>其村<sup>ソノムラ</sup>所基<sup>シヨキ</sup>の節<sup>ノビ</sup>より百姓<sup>ヘイヤク</sup>當時<sup>トキノトキ</sup>零落<sup>シヨラク</sup>して小高<sup>コタカ</sup>の成<sup>ナリ</sup>たる者<sup>モノ</sup>よりと頭立<sup>カシラダテ</sup>たる百姓<sup>ヘイヤク</sup>と長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>と唱<sup>ナゲ</sup>へ村役人<sup>ムラヤクシ</sup>よりとあし往古<sup>ワウコ</sup>何<sup>ナニ</sup>の長<sup>ナガ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ長<sup>ナガ</sup>よりと右<sup>ミダリ</sup>百姓代<sup>ヘイヤクダイ</sup>を多く此<sup>コノ</sup>長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>の内<sup>ウチ</sup>より勤<sup>イダ</sup>む右<sup>ミダリ</sup>より所謂<sup>イハレニ</sup>庄屋<sup>シヤウヤ</sup>長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>と唱<sup>ナゲ</sup>る<sup>ナ</sup>処<sup>トコロ</sup>を凡<sup>オモ</sup>て長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>とと違<sup>チガ</sup>ひ村役人<sup>ムラヤクシ</sup>の役名<sup>ヤクナメ</sup>あり此<sup>コノ</sup>所<sup>トコロ</sup>よりと外<sup>ソノトモ</sup>より唱<sup>ナゲ</sup>る<sup>ナ</sup>長百姓<sup>ナガヘイヤク</sup>と頭<sup>カシラ</sup>百姓<sup>ヘイヤク</sup>と云<sup>イ</sup>ふ右<sup>ミダリ</sup>村役<sup>ムラヤクシ</sup>の唱<sup>ナゲ</sup>る<sup>ナ</sup>閑東<sup>クワントウ</sup>上方遠國<sup>エモク</sup>と何故<sup>ナニニ</sup>は役名<sup>ヤクナメ</sup>兼<sup>カミ</sup>ふともや其<sup>ソノ</sup>謂<sup>イハレ</sup>を詳<sup>ツツシ</sup>りある

一 私領<sup>シテウ</sup>より大庄屋<sup>オホシヤウヤ</sup>と云<sup>イ</sup>ふ領主<sup>レイシュ</sup>地頭<sup>ヂトウ</sup>より帶刀<sup>オビタチ</sup>を免<sup>メ</sup>じ格式<sup>カクシキ</sup>申付<sup>マウツケ</sup>け過<sup>ス</sup>分の給<sup>キタメ</sup>



田圃... 米と組下村方より差出し一領一郡の正と取計ふ村役人なり組と分け

何の某組何十箇村と一支配高七八千石より壹万四五千石位迄ありて組下の庄屋を支配しつゝ其家極り子孫相續し之を勤む又諸侯方の家より知行或は扶持切米を渡し家中士列に立置し稀なるは其家より依り大庄屋の格式と宛行以尊卑格別差入去あつゝ何れも家中よりふく在方の者より居村に田畑屋敷等所持致し住居する正也又國に依り罰元致る總庄屋檢断なく唱ふ所もりり中古までと料所よりゆりし事休の頃神尾若狹守勘定奉行の節大庄屋有て却て村の為宜しあつゝ由りて料所の分を停止し成て今を遠國より共料所はと大庄屋のし私領の東も其節より多分止またり

改正補訂地方凡例録卷之七上畢

